

■ 2025年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

難易度・分量ともに昨年に比べてかなり軽量化された。
問題の内容も典型的なパターンのもが多く、受験生にとっては解きやすかったのではないだろうか。
逆にいうと小さなミスによる失点が致命傷になりかねないのでこの点には十分注意したい。

〈特記事項・トピックス〉

昨年・一昨年と続けて共通接線の問題が出題された。

〈合格への学習対策〉

難易度・分量ともに軽量化された結果、平均点は確実に上がると予想される。やさし過ぎたので来年度はもう少し難易度が上がるだろう。対策としては、標準問題を確実に解けるようにすること、ミスをせず最後の答えまでたどりつけることがこれまで以上に重要になってくるであろう。
確かな基礎力と計算力を養うことこそが合格への近道であると言っても過言ではないだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	記述	Ⅱ	微分・積分	3次関数のグラフ上の点における接線が放物線と接する条件を考えるとよい。	易
〔2〕	記述	Ⅱ	平面座標、三角関数	解答の方針に迷いそうな問題である。座標を設定すると計算がしやすい。	標準
〔3〕	記述	A	整数	(1)は n を4で割った余りで分類するとよい。 (2)は(1)の結果をうまく利用できるかがポイントである。	やや易
〔4〕	記述	A	確率	場合分けして数え上げるだけの問題であるがやや面倒な問題である。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。